

ランキュラスの高品質安定生産に向けて

■ 中讃地域 ランキュラス生産者 ■

(中讃農業改良普及センター 石川史也)

●対象の概要

中讃地域の花き栽培面積は2,950aで、県全体の14%を占めており、切り花類が中心である。主要品目としての栽培面積は、最も多いキクが1,568a、次いで鉢物類が370a、カーネーションが146aとなっている。そのような中、近年管内では、切花として人気が高いランキュラスの生産拡大が進んでおり、今年度は、新規生産者3名を含む14名(13経営体、約24a)がランキュラスの促成栽培に取り組んでいる。

●課題を取り上げた理由

香川県における切花ランキュラスの生産量は全国2位(令和2年)で、県ではさらなる生産拡大を目指し推進を図っている。特に県オリジナル品種である「てまりシリーズ」の生産拡大に力を入れており、中讃地域においてもランキュラスの新規生産者の多くが「てまりシリーズ」を中心とした栽培に取り組んでいる。

生産拡大が進む一方で、中讃地域は県内ではランキュラス生産の後発地域である。他産地と比較すると生産者数、作付面積、出荷量が少ない。また、栽培経験が浅く、十分な栽培技術を習得できていない生産者が多いことに加え、ランキュラスの部会が存在せず、生産者同士の交流が乏しく自身の栽培を客観視しづらいことから品質格差が大きいなどの課題がある。

そこで、これらの課題を解決するため、ランキュラスの安定生産と産地化を目的に、新規生産者を中心とした栽培支援と生産者間の交流促進に取り組んだ。

●普及活動の経過

1 個別カルテに基づいた巡回指導

生産者個々の技術レベル向上を目的に、塊根の冷蔵催芽処理から栽培期間を通して、定期的なほ場巡回を実施した。栽培者毎に個別カルテを作成し、生育状況や病害虫の発生状況等を

記録するとともに、生育ステージに応じた管理ポイントについて説明を行った。

定植後にはJA花き担当者と個別カルテに基づいたほ場巡回指導を行い、栽培状況の把握と情報共有することで連携強化を図った。



JAとほ場巡回の様子

2 栽培技術の実演指導

経験の浅い生産者を対象に、管理技術のポイントとなる時期には実演を中心とした指導を行った。以下が主な内容である。

- ・5月中旬：塊根の掘上げと掘上げ後の洗浄および保存方法
- ・9月上旬：冷蔵催芽処理
- ・10月上旬：定植作業



塊根掘上げ指導の様子

- #### 3 生産者が各ほ場を巡回する見学会の開催
- 出荷開始の12月中下旬に、生産者を交えたほ

場見学会を開催した。見学の際には採花時の写真をもとに出荷適期について指導を行った。

また、近年管内の一部ほ場でも確認されているランンキュラス葉化病は、大幅な品質低下を起し、出荷に大きな影響を及ぼすことから、詳しい症例を示した資料を配布し、発病株の抜き取り等の対策に関する指導も併せて行った。

●普及活動の成果

1 個別カルテによる栽培改善点の明確化

定期的なほ場巡回の後に、生産者毎の栽培状況をまとめた個別カルテを作成した。個別カルテには現状の生育や病害虫の発生および農薬の使用状況を記入し、次回のほ場巡回時に、生産者と共に振り返ることで各々の栽培上の課題が明確になり、それに対応した指導を行うことができた。

カルテに基づく継続的な指導の結果、平成27年度と比較して、令和4年度の栽培面積は約4倍、経営体数は約2倍に増加した。また、令和4年度の管内ランンキュラス面積のうち、約90%を「てまりシリーズ」が占め、県オリジナル品種の産地拡大に繋げることができた。また、令和2年度と令和3年度を比較すると、10a当たりの収量が約10%増加し、平均単価は45.5円から46.7円へと徐々に上昇している。令和4年度においても、平均単価が例年よりも高く推移しており、品質改善傾向がみられる。

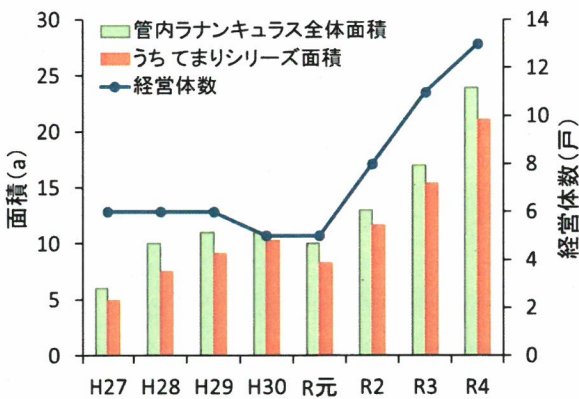


図1 栽培面積と経営体数の推移

2 栽培技術の実演指導による理解度の向上

ベテラン生産者のほ場で見学会を行うことで、新規生産者とベテラン生産者の交流に繋がった。ほ場では実演指導も実施し、栽培管理のポイントとなる時期に合わせた指導に留意すること、特に経験の浅い生産者の作業状況を確認

することにより栽培技術に対する理解度が分かり、指導する側から指導方法の改善に役立てられた。

3 ほ場見学会を通じた生産者間の交流促進

生産者間で互いのほ場を見学することにより、ほ場環境の違いや作業時の工夫を知り、自身の栽培状況を客観的に捉えることができた。例えば現場で採花適期である花卉の開き具合や花首の硬さを複数名で確認することで、切り前の統一が図られ、産地全体として品質の安定化に繋がった。

また、ほ場見学会を通して生産者から「刺激を受けて栽培意欲が高まる。」「他の生産者と知り合うきっかけになった。今後は連絡を取り合い栽培技術の共有ができればと思う。」等の意見も寄せられ、ランンキュラス栽培への意欲向上が図られた。



ほ場見学会の様子

●今後の普及活動の課題

今回の活動により、安定生産、品質向上に一定の成果を得ることができた。しかし、現時点で全ての生産者が十分な栽培技術を身に着けたとは言い難く、引き続き定期的な巡回と丁寧な技術指導に取り組む必要がある。ほ場見学会の開催についても生産者間の交流をさらに深めるため、定期的に開催することが重要である。

栽培技術面では、冷蔵催芽処理時や定植直後に腐敗病の発生が多かったことから、その原因が外気温の影響による冷蔵庫内の温度上昇による可能性が考えられた。庫内温度の確認と生育状況に応じた細やかな支援を通して生産者自らが栽培状況を判断し対応できるように導き、その結果、品質改善と安定生産が産地化に繋がることを目標に普及活動に取り組んでいきたい。